

# 稲陵会報

第55号

発行 横田高等学校会  
稲 陵 会  
令和3年  
3月1日

## 今年度の活動から



稲陵会 会長  
石原 肇  
(第42期)

日頃より稲陵会員の皆様方には、ご支援・ご協力を賜っておりまして、厚くお礼申し上げます。

例年、稲陵会は、支部総会・評議員会や代議員会、各種の同窓会等の活動を行っていましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染の広がりを受けて、奥出雲以外の支部総会は殆ど中止されました。しかし、中には、会のやり方や内容等を各支部役員で検討されて実施されたところもあったようです。

横田高校で6月に行われていた定例の評議員会では、人数を減らし、地区代表者に替えて、事業・会計等の審議をしました。また、町内の阿井・三成・亀嵩・横田支部では、代議員会・役員会があり、本部の会長・副会長が出席しました。各支部の活動内容は、様々ですが、長年勤められた役員交代や、活動報告・活動

計画等が話し合われました。来年度は、稲陵会創立70周年の年に当たるようです。コロナの影響で今後も、外出・旅行・密なる会合等の自粛規制が叫ばれるようになるかと想像されます。

このような現況の中で、稲陵会を改めて見直してみるために、各種の会の資料や会員の方の手記を読ませていただくと、かつて故郷仁多で、未来と希望、あるいは夢と現実の間に悩む多感な熱い思いが感じられます。会員の皆様のご健康・ご活躍をお祈りします。

## 再び繋がり 合えるように



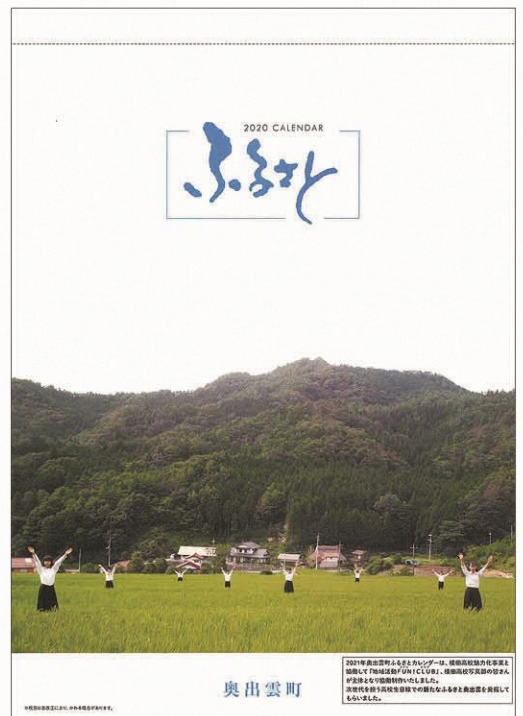
校長  
黒田 克司

コロナで始まった令和2年度。本校も4月中旬から5月終わりにかけて1ヶ月半の臨時休校。その後やっと本格始動したものの引き続き感染対策に戸惑う毎日。激

変した学校では各種行事も延期や中止となりました。何よりも残念だったことは部活動の県大会や全国大会が軒並み中止となったことです。特に3年生は、いよいよ進路実現に臨もうとした途端に社会と隔絶される時期に入ってしまった。就職希望生徒にとってはインターンシップが、進学希望生徒にとってはオープンキャンパスが行われなかったケースが数多くあります。

学校は人が集まることに意義があります。そして、卒業生会にとっては、その意義は更に大きいものです。同じ校舎で過ごした3年間。悲喜交々の思い出が詰まった心。時間を超えて卒業生が集い、繋がり合って、横田高校で学んだという共通の経験を分かち合うものです。

島根県の内外を問わず、今年度は稲陵会の支部活動はほんの少数開催されたように聞いております。コロナに関しては、年度当初の第一波、夏の第二波、そして年末年始の第三波とその大きさが実感されればされるほど、集まることの大切さ、集まれないことの無念さが再確認されます。断たれた繋がりを再び動き出させる強い力は、卒業生会にあります。稲陵会に對しましては、日頃からのご理解とご支援に感謝申し上げますとともに、今後ますますのご発展をお祈り申し上げる次第です。



今年度は奥出雲町からの依頼により、町のカレンダーを横高生が作製しました。奥出雲町地域づくり推進課で購入できます。

# 支部だより

## 横田支部評議員総会

支部長

田村 久夫

(第48期)

令和元年の秋、会員400名余りを有し横田高校の地元で、重責ある地区の支部長に、浅学非才を顧みず引き受けました。

年明けの令和2年春に評議委員会を開き承認を得る予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、会合の時期が決まらず10月23日に支部役員会を行い、評議員総会を11月20日によりやく開催したのであります。



当日は午後7時より密に配慮しながら横田コミュニティセンター

大ホールで30名余りの評議員さ

んに集まっていたいただき、来賓とし

て稲陵会本部から石原肇会長、安

部隆副会長、植田美由紀副会長、

植田祐行校内幹事長の出席を賜り

ました。母校からは黒田克司校長

先生の予定でしたが、急用が出来

欠席となり、植田校内幹事長が校

長先生の挨拶を代読されました。

総会の進行は浅野保夫副支部長

が行い、来賓あいさつには石原会

長より、創立百周年記念事業の報

告と感謝の言葉がありました。

議事では横田支部役員交代につ

いての経緯説明と新役員承認がな

され、続いて横田高校創立百周年

記念事業の寄附金報告、横田支部

の会計収支報告、今年度からの稲

陵会会費と集金方法について、そ

れぞれ説明があり、拍手で了承を

得ました。最後に質疑応答を行っ



取り組んだ寄附金活動内容と支部会員様からの寄付金額を明記し、寄附者全員に礼状を配布する事で評議員会の皆さんに了解を得て、無事総会を終了しました。

## 亀高支部総会

支部長

米原 利則

(第51期)

稲陵会亀高支部総会を、亀高基幹センターに於いて、今年はコロナ禍により自治会の代表者だけに集まっていたいただき開催しました。

横路副会長には百周年事業の様子を交えながらご挨拶いただきました。新役員も承認いただき、今年度の支部の活動が始まりました。

コロナの影響で生徒達の活動の場も制限されていることと思います。亀高では11月に湯野神社遷宮祭が執り行われますが、地区外から予想以上の寄付金が集まっているそうです。コロナ禍に会員の皆様のお力を思う気持ちに感謝

です。ワクチンが開発され、それが世界中に行き渡り、一日も早く収束するようになっていると思います。

## 三成支部代議員総会

支部長

安部 隆史

(第63期)

この度の役員改選により支部長に就任しました安部隆史です。よろしくお願ひします。

さて、去る6月18日(木)、カルチャープラザ仁多農事研修室に





## 支部活動の思い出

阿井支部

影山豊幸

(第42期)

令和2年、感染拡大に歯止めがかからない新型コロナウイルスに翻弄された年の恒例の新語・流行語大賞が「三密」の発表がありました。令和2年猛暑が続いていた8月7日阿井支部総会を開催致しました。横田高校より黒田校長、植田幹

事長、本会より石原会長、安部、横路、植田副会長5名様の来賓を迎え、支部役員、代議員25名、合計30名の出席で開催しました。議事では役員改選が行われ久しぶりに新旧交代の総会となりました。

さて、私事、少し古くなりますが昭和43年、25歳の時、当時卒業生であり高校PTA阿井支部会長が私どもの職場(農協)へこれ、「稲陵会の支部組織がないのは阿井だけだ。職場の職員4〜5名位で支部組織を結成してくれ。」との唐突な命がありました。その年、私も評議員となり事務局長をお引き受けしこれまで携わってまいりました。結成当時には本校第1期卒業生の大先輩が1名お元気でこ

活躍されていた記憶があります。

振り返れば事務局長44年、支部局長8

年、合わせて52年間本会の皆様、支部会

員の皆様のご支援ご協力を賜りながらそ

の任を何とか全うすることが出来ました

ことに厚く感謝とお礼申し上げます。あ

りがとうございました。

かえりみますと60周年記念から昨年の

百周年記念の式典まですべてに参加する

機会に恵まれました。

特に平成元年の70周年記念の際は稲陵

会館の建設のため、各支部は、杉丸太の

末口5センチ、長さ5メートルを1本以

上の要請があり伐採や搬出した時の思い

出、また昭和50年代には高校駅伝が強く、

度々京都で行われる都大路の全国大会へ

の出場があり、その年には会費と出場募

金カンパの集金をお願いしました。それ

も母校の選手への大きな活躍と期待があ

り、会員は大変協力的で目標額以上の実

績を上げることが出来ました。平成28年

8月には広島で稲陵会広島山口支部の交

流会へも参加の機会をいただきました。

賑やかに懇親会が行われ夕方よりマツダ

スタジアムでカープ対ヤクルトの観戦、

翌日の宮島観光などの思い出が浮かびま

す。母校の諸先輩、同期生、後輩の方々

とお逢いし歓談が出来たことが稲陵会の

大きな絆となりました。

数々の思い出はありますが、今後も横

田高校、稲陵会がそれぞれの立場で存在

を深め、広め、高め、ますますのご活躍

とご繁栄をお祈りします。

## 「稲田ヶ丘」永遠にー

前阿井支部副支部長

長谷川 公子

(第42期)

最近、やたらと昔話をする私がいる。

やっぱり年を重ねたようだ。それは60年

前の高校生活ーあつという間に過ぎて

いった月日に愕然としたり悔やんだり、

今更戻らない時間を知る。昭和34年〜37

年の3年間で私の高校生活。まだ我が家

はテレビなし、もちろん車なし、「そん

な時代って何時代？」と学童の子に笑わ

れた事があった。しかし、私にとつてこ

の3年間こそ一番思い出深く楽しい時で

あった。学園祭、部活動で励んだ「稲田

ヶ丘」、勉強もユニークな先生がいて面

白くいくらか頑張ったように思う。ただ

少々怖い先輩もいた。でもカッコイイ先

輩もいたetc.

私は三沢から自転車通学だった。すご

いポロ自転車によくパンクした。パンク

した時は友達に鞆を預け、そのあとを

走って7時3分の汽車に飛び乗った。自

慢じゃないけど、一度も遅刻した事はな

かった。魅力ある高校生活だったかは？

だが、まわりの人に「元氣だねー。百才

まで生きられるわー。」とよく言われる

が、その原動力は、学校へは行くものだ

という「あたりまえ人生」だったのだ。

高校で培った体と心が今の私を支えてく

れている。

時代が大きく変わっていった半世紀、ス

マホ、自動運転車等々想像を超えどんど

ん進化する社会。これからの世界はどう

なるんだろうと思いつつ、稲陵会の役員

として何度も足を運んだ懐かしい「稲田

ヶ丘」は、いつも思い出がよみがえった。

創立百周年を期に役員を退いたが、阿

井支部は次世代へとバトンタッチができ、

若く力強い新スタッフに次を託した。

これからも、永遠に「稲田ヶ丘」を語

り続けられますようにー。

## 卒業生の活動紹介

2020年10月11日(日)、横田ブラザーズクラブの60周年記念式典に藤原辰史さん(75期)がオンラインで講演されました。

藤原さんは、京都大学人文科学研究所に准教授として在職中で、2019年には著書「分解の哲学」(青土社)によりサントリー学芸賞を受賞されました。現在、朝日新聞・毎日新聞・山陰中央新報に定期的に寄稿しておられます。

「歴史から考える 新型コロナウイルス～新時代の倫理と思想～」という演題でしたが、横田で育ったことが自分の研究の根になっていることや、高校時代に世界と日本そして奥出雲がシンクロする歴史の面白さに引き込まれていったことから講演を始められました。

講演では、現在の新型コロナウイルスのパンデミックがちょうど100年前のスペイン風邪(1918～1920)の状況に非常によく似ていると指摘され、これをきっかけに大きな社会変革が起こる可能性が高いと述べられました。それがともすると社会的弱者を切り捨てかねない危険性

## 藤原辰史さん(第75期)

もはらんでいてと警鐘を鳴らしながら、コロナウイルスへの対応が100年後の歴史教科書にも載る大きな事件であり、パンデミックの真ただ中にいる私たちは歴史の審判の前にその態度を問われている、と投げかけられました。

参考となる他の研究者の著作なども紹介されて聞く側の読書欲を高められました。何よりもパンデミックの先にどういう社会をつくっていくのか、私たち一人ひとりが問われているのだということを実感させられました。同時に、それに真剣に向き合っておられる藤原辰史さんの姿勢に同窓生としてとても誇りを感じるとともに、とても勇気づけられました。



## 卒業生の活動紹介

2020年12月6日から27日まで、雲南市の奥出雲葡萄園地下ギャラリーにおいて、荒金さん主催による個展が開催されました。開催期間中、荒金さんに普段のご活動についてお伺いしました。

### ■ 現在のご活動

横田高校を卒業後、大阪総合デザイン専門学校へ進学。卒業後は広告代理店でデザイナーとして勤務する傍ら柳リコの名義で関西・山陰を中心に各種展示会やイベントへの出展を中心に活動。主にボールペンを使用し、美しく毒を秘めた女性と鮮やかな黒をテーマに作品を制作する。

コロナ禍で作家の作品発表の場が減少したことからアートを通じた人と人の繋がりに焦点を当て、2020年8月にオンライン展示企画『結び目』を主催。プロアマ問わず全国から多数の作家が出展し、10月まで全3回の会期を終了。

### 【山陰での主な活動】

- ・2019年8月 島根県立美術館『KUNIBIKI'19』出展
- ・2019年10月 山陰中央新報 月いち美術館 掲載
- ・2020年1月 山陰中央新報 お正月特集ページ挿絵担当
- ・2020年5月～ 山陰中央新報『まなぶん学園』キャラクターデザイン 他

### ■ 横田高校への想い、在学中の思い出など(ご本人から)

私は早い段階で進路を決めていたので、2年生に進級する際は専門学校進学・就職に特化したクラスを選択しました。専門学校への進学を決めた際、「不安定な道に進むという自覚を持ち、夢が破れた時に人生を立て直せるよう考えること」を母と約束したのを覚えています。

私が進級したクラスは大学進学クラスと比較すると模試や講習の時間も少なく、空いた時間は絵を描いたり部活や習い事に専念して資格を取ったりと、高校生活を満喫しな

がらも将来に向けて有意義な時間を過ごすことができましたように思います。

また、そのクラス特有の『だんだんカンパニー』も大きな刺激となりました。私は商品のパッケージデザインを担当しました。お客様のニーズや商品の売りを考えデザインに興ず…という実際の仕事の流れを高校生の内から体験出来るのは貴重な経験でした。

現在はデザインを本職としながらイラストの活動も続けています。地元を離れましたが、ご縁があり山陰に関するお仕事や展示会の依頼もいただけるようになりました。今後も自分が信じる道を進んでいきます。



荒金さんには、個展の開催を学校に周知いただいたご縁から、本取材にご協力いただきました。デザインに関わる進学や就業を視野に入れた生徒への学びの場となればといった思いから、これまでも地元山陰で様々な活動を展開しておられます。

制作では案を練るのに数日を要し、作業は一度でも間違えるとやり直しになる等、時間と集中力が必要とお聞きしました。そうして出来上がった作品は、一枚一枚が丁寧・細密に描かれており、身近に使うボールペンがプロの手によって写真のような作品に仕上がるということに驚き、強く印象に残りました。

会場では初日からグッズが完売する等、荒金さんの作品に共感や感動の輪が広がっていることを間近で体感することができました。公私ともにやりたいことを自らの力で実現しておられる姿は、同窓生としてとても励みになりました。

## 荒金璃子さん(第93期)

# 教育実習を終えて

## 安達 あすか (第97期、体育)

横田高校へ教育実習に行かせて頂き、終わってみるとやはり一瞬で終わってしまった実習と感じています。

4年前に自分が通っていた学校で、先生という立場でもう一度過ごすことが出来、嬉しい気持ちでいっぱいでした。毎日横田高校に来て、先生方や生徒とコミュニケーションをとる度に、自分の高校時代の日々が思い出されました。今、思い返すと本当に毎日充実した日々を送っていたのだと実感します。毎日、友人と会って他愛もない話をしたり、テストに向けて一生懸命勉強したり、仲間と切磋琢磨しながら毎日部活の練習をしたり、そんな何気ない学生生活が一番心に残っている事だと教育実習を行いながら感じていました。

先生に教えてもらう立場から、生徒に教える立場になり、教える事の難しさを感じました。生徒に一番伝えたいポイントは何か、どのような説明が生徒に伝わりやすいのか、どこに留意しながらするべきなのか、考えるべき点は沢山ありました。それを授業の中で実際にやっていく事がなかなか出来ませんでした。先生方に助言して頂きながらだんだんと自分らしい授業に出



来たと感じました。

3週間という長いようで短かった横田高校での教育実習は、自分の中でも貴重な経験となりました。横田の町で過ごし、改めて横田の人の温かさを感じました。学んだ事をしっかりと今後に活かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

## 松島 駿介 (第97期、体育)

本年は新型コロナウイルスが世に蔓延している中ではありましたが、実習を受け入れていただき、無事終えることができましたこと感謝申し上げます。

徐々に母校である横田高校を訪れましたが、生徒からの心地よい挨拶を受け安心感を抱くと共に清々しさを感じました。私が横田高校に在籍中も挨拶は活発でしたが、久しぶりに訪れたことで横田高校の一つの魅力である挨拶の良さについて再確認しました。

緊張と不安が入り混じった中始まった教育実習ですが、3週間で多くのことを学ぶことができたと思います。先生方の授業を見学し、授業上の注意点や工夫するところ等を中心に学ぶことができましたが、実際に授業をしてみることが一つ一つの授業を行うことの難しさを知りました。生徒に安全で楽しい

授業を行うために学習指導案を丁寧に作成しましたが、授業の際には自分が想像している以上に意識しなければならぬことが多くありました。体育では、環境や用具を整え、生徒に練習方法や意図をわかりやすく説明すること、保健では単元に合う具体例や最近のニュースを取り上げ生徒が内容を掴みやすくすることが求められると感じました。

しかし、体育、保健どちらの授業も生徒に楽しんでもらえる授業を行うことが最も大切であり、そう思ってもらえるような授業を行えたらよいと思いな

がら授業を行いました。私の授業で生徒がどう感じたのかはわかりませんが、生徒が頷いてくれることや、マスク越しでも表情が緩んでいるのを感じることができて良かったと思います。

私が在学中には当たり前のように授業を受けることができていましたが、それは教職員の方々が生徒のために最善の準備を行い、教育を受けるための環境を整えてくださっているおかげだと改めて感じました。

この貴重な経験を今後の成長の糧とし、社会の役に立てるようより精進して参りたいと思います。この度はありがとうございました。



# お 礼

稲陵会 会長 石 原 肇

この度、島根県立横田高等学校創立百周年記念事業実行委員会から事業完了の報告がなされるに当たり、改めて稲陵会会員の皆様にお礼申し上げます。

実行委員会では、令和元年9月15日に記念イベント「ホッケー招待試合」、10月19日にモニュメント除幕式、11月2日に記念式典を行いました。令和2年に入り、5月に「横田高等学校百年史」を刊行し、7月に校内諸備品の整備を終え、10月の事務経費支払いをもって創立百周年事業が完了致しました。

この事業の推進に係る予算として、奥出雲町及び横田高校PTAからそれぞれ壹千万円の提供を受け、稲陵会も同額の壹千万円を目標に寄附金を募ることとして合計参千万円を計上してスタートしたことは、趣意書に記載のとおりでございます。稲陵会の会員の皆様の寄附に旧・現教職員や地元企業等の寄附を加えますと、合計壹千六百万円ほどの多額なご寄附をいただきました。これも、稲陵会各支部の役員の皆様の絶大なるご尽力と多数の会員の皆様のご厚情の賜物であり、衷心より深く感謝申し上げます。

この百年の間、横田高校は壹万三千余名にのぼる有為な人材を広く社会に送り出してまいりました。卒業生の各方面における活躍はめざましく、地域から寄せられる横田高校への期待は、昨今ますます高まっています。しかし、多くの高校は少子化の進行により生徒数の確保が困難な状況にあり、横田高校も例外ではありません。近年学校の努力により、県外を含む広範囲からホッケー志向等の入学者が増え問題解決への第一歩を踏み出しましたが、自宅から通学できない生徒の宿舎の確保が新たな課題となっております。寄宿舍である紫雲寮の隣接地に建設中の奥出雲町立地域学習拠点施設は、生徒の宿泊にも活用可能であり、新たな道を切り拓くものであります。決算書に記載の通り、決算残額の多くを、この施設の備品充実に活用させていただくことが実行委員会で決定されました。会員の皆様には、ご理解ご了承を賜りますようお願い致します。このようにして今日的な課題に応じた母校への支援ができますのは、多額な寄附をいただきました会員の皆様のお陰であり、重ねて厚くお礼申し上げます。

結びに、今後とも稲陵会にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げ、お礼の言葉と致します。

### 令和元年度 稲陵会別途積立会計決算書

#### 1. 収入の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B)-(A)	備考
繰越金	2,410,528	2,410,528	0	
繰入金	50,000	50,000	0	経常費会計から繰入
雑収入	472	74	△398	預金利息
合計	2,461,000	2,460,602	△398	

収入済額 2,460,602円 (次年度に繰立)

収入済額の内 709,742円は定期預金、1,750,860円は普通預金

### 令和元年度 稲陵会名簿会計決算書

#### 1. 収入の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B)-(A)	備考
繰越金	582,880	582,880	0	
繰入金	50,000	50,000	0	経常費会計から繰入
雑収入	120	5	△115	預金利息
合計	633,000	632,885	△115	

#### 2. 支出の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B)-(A)	備考
稲陵会員名簿作成費	40,000	16,416	△23,584	名簿データ更新経費
予備費	20,000	0	△20,000	
合計	60,000	16,416	△43,584	

収入済額 632,885円-支出済額 16,416円=差引残額 616,469円 (次年度に繰越)

### 令和元年度 稲陵会経常費会計決算書

#### 1. 収入の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B)-(A)	摘要
繰越金	1,178,008	1,178,008	0	
会費	1,006,500	1,006,500	0	@500×2,013名分
入会金	1,171,200	1,106,800	△64,400	1,2年生 @400×延1,678名分 3年生 @480×延900名分 過年度 @400×延9名分
協力金	480,000	583,249	103,249	703名分
雑収入	292	40,012	39,720	寄付(故 松浦前会長ご遺族)他、預金利息 他
合計	3,836,000	3,914,569	78,569	

#### 2. 支出の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B)-(A)	摘要
会議費	50,000	26,796	△23,204	評議員会 他
活動費	1,080,000	546,394	△533,606	支部総会出席旅費、助成金 他
通信費	480,000	459,675	△20,325	会報発送(3,447通)、会報発送用封筒 他
記念品	330,000	329,940	△60	卒業記念品(ロディアメモカパー ブロックメモ付)
慶弔費	20,000	43,206	23,206	前会長 松浦様ご逝去による弔慰金 他
印刷費	260,000	239,800	△20,200	稲陵会報印刷(7,700部)
名簿会計	50,000	50,000	0	
学校後援会	100,000	100,000	0	学校後援会負担金
別途積立会計	50,000	50,000	0	
稲陵会館維持費	150,000	150,000	0	
事務経費	300,000	300,000	0	事務委託料
雑費	200,000	50,987	△149,013	Selrio鳥根ホッケー日本リーグ協賛広告料 他
予備費	766,000	0	△766,000	
合計	3,836,000	2,346,798	△1,489,202	

収入済額3,914,569円-支出済額2,346,798円=差引残額1,567,771円 (次年度に繰越)

令和元年度稲陵会経常費会計 他決算監査書

鳥根県立横田高等学校稲陵会第7条に基づき、稲陵会経常費会計、稲陵会別途積立会計、稲陵会名簿会計の決算書及び出納簿、証拠書類等一切について監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

校内監査  
 監事 田中 純(印)  
 監事 三谷 今日(印)  
 令和2年5月18日

稲陵会監査  
 監事 内田 功(印)  
 監事 白根 裕文(印)  
 令和2年5月21日

《東京》	《関西》	《広島・山口》	《松江》	《横田》	《鳥上》	《八川》	《馬木》	《三成》	《阿井》	《亀嵩》
支部長 三澤 啓二 (45期)	支部長 藤木 真 (60期)	支部長 長谷川 健 (62期)	支部長 田中 裕一 (54期)	支部長 板垣 正明 (71期)	支部長 浅野 保夫 (48期)	支部長 荒川 佳史 (60期)	支部長 松崎 正由 (47期)	支部長 渡部 久直 (53期)	支部長 糸原 隆弘 (67期)	支部長 安山 貴史 (70期)
支部長 野村 啓一 (48期)	支部長 藤木 真 (60期)	支部長 長谷川 健 (62期)	支部長 田中 裕一 (54期)	支部長 板垣 正明 (71期)	支部長 浅野 保夫 (48期)	支部長 荒川 佳史 (60期)	支部長 松崎 正由 (47期)	支部長 渡部 久直 (53期)	支部長 糸原 隆弘 (67期)	支部長 安山 貴史 (70期)
支部長 佐藤 謙一 (67期)	支部長 米田 嘉宏 (51期)	支部長 足田 嘉宏 (76期)	支部長 小田 貴一 (53期)	支部長 谷山 貴一 (70期)	支部長 安山 貴史 (67期)	支部長 糸原 隆弘 (67期)	支部長 渡部 久直 (53期)	支部長 松崎 正由 (47期)	支部長 荒川 佳史 (60期)	支部長 浅野 保夫 (48期)

**編集後記**

第55号となる稲陵会報を今年度も上梓することが出来ました。お忙しい中にも拘わらず原稿をお寄せ下さった皆様、厚く御礼申し上げます。有り難うございました。

1年前、全国でやむなく卒業式挙行を取りやめた学校が数多くありました。入学式も縮小・延期を余儀なくされ、5月には緊急事態宣言発令という異常事態となりました。これまでの日常は当たり前ではなかったのだと思知らされたこの1年。目標を失ったり、先々への不安を抱えたりしている子ども達に寄り添って下さったのは、ご家族はもとより地域の皆様、そして卒業生の皆様でした。様々な形でのお力添えを頂きましたことに衷心より感謝申し上げます。

危機の時代である今こそ、人間の叡智を結集すること・人間の品性を保つことが必要とされています。会員の皆様には健康に留意され、未来を担う子ども達への支援・ご協力を引き続き賜りますようお願い申し上げます。(小田川 記)

**令和2年度 役員**

会長 石原 肇 (42期)  
 副会長 横路 仁朗 (46期)  
 副会長 植田 美由紀 (54期)  
 副会長 黒田 克司 (47期)  
 監事 内田 功 (58期)  
 監事 白根 裕文 (59期)

**稲陵会評議員会**

\*今年度は各支部代表者にご出席いただき、開催しました。(R2・6・29)

○令和元年度会務・事業報告  
 ○令和元年度会計決算、監査報告  
 ○令和2年度会務・事業計画(案)  
 ○令和2年度会計予算(案)  
 ○百年実行委員会の報告および寄附状況  
 ○稲陵会諸会計の会計事務の委任  
 ○その他

**校内事務局(幹事)**

細木 敏幸 (58期) 小田川 七恵 (76期)  
 植田 祐行 (61期) 恩田 賢二 (81期)  
 田中 智美 (63期) 伊藤 直登 (86期)  
 内田 由紀 (63期) 平井 千夏 (93期)

《布勢》 支部長 渡部 雅男 (40期)  
 《三沢》 支部長 藤原 久一 (39期)  
 《比田》 支部長 糸原 健二 (39期)  
 《雲南》 支部長 小景 良教 (39期)  
 《日南》 支部長 井上 正二 (46期)  
 支部長 石原 隆夫 (45期)  
 支部長 安部 善彦 (43期)  
 支部長 丸山 且彦 (53期)  
 支部長 福田 貢悟 (58期)

※三成支部長の西村保夫様(47期)、阿井支部長の影山豊幸様(42期)が退任されました。長らく本会の運営と発展に貢献いただきましたことに、心よりお礼申し上げます。